

第4回「であい展」と瀬戸・寿夏祭り

この「であい展」は8月10日(水)から16日(火)まで地元の夏まつりと同時開催。

瀬戸会館で活動する各教室やサークルの活動のようすや成果をご披露すると同時に、地元地域で活動する写真家や作家とそのグループの作品を展示。

今年の「であい展」は、それらの作品群のすばらしさのもとより、皆さんの力でつくりあげられた「であい展」であったことのすばらしさが、心に残る。

サークル代表の皆さんとの打ち合わせ、会場準備で作品を展示するパネルや机の位置、壁面の利用法を考えると、皆さんが次々と提案し、工夫し、その場にあわせて困難を切り抜ける応用力に脱帽、だった。年金世代と思われる人も体が実によく動く。11日(木)には地元ケーブルテレビ局から取材を受けて、毎時のニュースに放映された。来館者も次第に増え、夏まつりの最終日にはピークを迎える。ゆめじゆく会会員の皆様、出品いただいた皆様、そして御参観いただいた多くの皆様に心よりお礼申し上げます。

16日(火)は地元の夏まつりの最終日で、アイスクリンやボールすくい、ビールや串焼きなどなどテントの前はどこも人だかり。盛川連合自治会長のあいさつに続いて佐々木市長がお祝いのことば。司会進行役の地元子ども会の小学生がマイクで曲目を紹介、音楽が流れて盆踊りが開始。やぐらを囲んでつぎつぎと踊りが続く。なかでも、地元伝統の「しっし踊り」は圧巻だった。太鼓だけの独特のリズムが刻むこの踊りは、静かな動きに力強さが加わって、尊い先祖の霊と対話を交わす踊りとも思わせる。また、そこここで飲み物や食べ物を片手に久しぶりの会話がはざむ笑顔の人垣。太鼓の音と踊り手とそれを取り巻く人々、そして子どもたちの歓声に沸いた夏まつりでした。



瀬戸会館だより
平成23年9月号
新居浜市瀬戸会館
〒792-0821
新居浜市瀬戸町7-30
E-mail
seto@city.niihama.
ehime.jp
TEL 0897
41-5859
(FAX 兼用)

大阪ー広島 ピースサイクリング

8月2日(火)の午後4時すぎに、ピースサイクリングの皆さんが瀬戸会館に到着した。2001年の同じ日にも、元気な姿を見せている。このサイクリングは大阪府箕面市萱野中央人権文化センターが窓口となり組織した「ピースサイクリング2011実行委員会」が主催するもの。

目的に「戦争の悲惨さやおかしさを学び、『平和』というテーマを・・・自分の日常をつなげて考えるきっかけにしたい」とある。小中学生13人を含む総勢26名は7月31日に大阪を出発ー小豆島ー観音寺ー新居浜ー菊間町ー江田島というルートで8月5日に広島に到着し、翌日の平和祈念式典に参加、フィールドワーク等の学習も予定されていた。

当館に着くと、宿泊する部屋を確認したあと調理室で夕食づくり。翌朝の食事も早く起きて自炊。そして部屋、トイレ、階段など館内を手分けしての掃除にそれぞれがよく動く。どこにも先輩がついていて、いい学びの場の感じを受けた。

8時半すぎに、揃いのTシャツ姿の皆さんは菊間町隣保館へ向け出発した。後を追う伴走車側面の幕には「気合い、絆、平和」「しっかり学んで しっかり楽しめ」などの文字が読めた。



9月の主な行事予定

9月7・21日(水)ー 移動図書館 (14:00~14:40)

9月11日(金)ー 「人権のつどい日」人権・同和教育現地研修会 フィールドワーク (開講式)

人権教育啓発講座受講生を募集します。

9月11日 10月26日 12月6日の3回

人権あらかると

たんけん・はっけん・ほっとけん

—探検・発見・放置—

こんの としひこ

わたしたちのみじかに
人をばかにしたり
人を仲間はずれにしたり
人をいじめたりしていることはないか
「たんけん」してみませんか

ありますね
ばかにされ なかまはずれにされ
いじめられている仲間は
ないですね
くるしんでいますね
そういうことを「はっけん」しましたね

いいのですか そういう仲間を
ほっといて……
いいえ「ほっとけん」ですよ

さあ さべつについて
「たんけん」しましょう
「はっけん」しましょう
きっと みなさんは
さべつを 「ほっとけん」ことに
気づきます

今野敏彦 東海大学教育研究所教授
「人権読本じんけんの詩Ⅲ」(明石書店)より

泉川校区の地区懇実施

今年度の泉川校区地区別人権・同和教育懇談会も2日間にわたり8会場で実施された。8月3日(水)は岸の上などのほか瀬戸会館でも、地区住民に教職員、公務員等が参加して人権・同和教育の研修が行われた。

最初に『親愛なるあなたへ』という教材のDVDを視聴。そのあと少人数の班に分かれて、グループ内で互いに感想を述べながら意見交換に移る。

画面に映る定食屋<まちの灯>で店の客が次々と繰り広げる場面場面に、よく見れば、気になる、聞きのがせない、改めて考えるべきもの、がひそむ。さらにストーリーが展開する。

続いて研修は全体会に移り、各班で話し合われた内容をそれぞれ代表がまとめて発表。「見た目で判断すること、決めつけはよくない」、「定食屋は地域のよろず相談所みたいなもので……」、「地域のつながり、交流が大事で、ここで主人公が変わっていく」など、地域の教育力に注目していた。研修を締めくくる助言にも、「人と人との出会い、ふれあいが主人公小野寺さんを変容させた」とあった。

また、このDVDの中に『恩おくり』という言葉があり、心に残った。それは、恩を受けた人へ直接恩返しをするのではなく、身の回りの、ほかの人や次の世代に恩を返して、次々とつなげていくことだという。

「人権のつどい日」にひろう



8月11日(木)は、西条市大町会館の館長越智直志さんの『私と人権』と題する講演を聞いた。

人の差別心の起こりには、学歴がほしい、金持ちになりたい、家柄は大切などの「欲」がもとになり、人を序列化したり、人の値打ちをはかる心、差別心が生まれると語られた。

『事実と真実』の違いを切り口にしていくつかの例をあげ、「人がよいだけでは……」「善意の人にも差別心が存在する」など会場の参加者がハッとする結論に導かれた。



平成23年度 人権座談会開く

西条人権擁護委員協議会、松山地方法務局西条支局が主催する上記の会が、8月9日(火)瀬戸会館で開かれた。参加者は新居浜市の泉川、川東、船木の中学校生徒14名とその指導者、人権擁護委員のほか法務局関係者、市の人権擁護課職員など計36名が出席した。

最初に人権擁護委員の荒井子ども委員長から「人権擁護委員の活動」について説明があった。そのなかで『人権の花』運動」というのは、「先ずお花を育てていただいて、花の命を体で感じてもらって、命の大切さを学んでほしい。」との願いが込められているとか。

次いで泉川中学校の生徒が司会する座談会。先ず各校の人権に関する取り組みが発表され、川東中は「人権新聞」の発行、船木中は「仲間意識をつくるための集団づくり」、泉川中は、「人権集会」などを取り上げ、それぞれ質疑応答に入る。このあと人権擁護委員が生徒たちの話し合いに加わり、視点が広がった。最後に坂上副会長の「命を支えるものは体と心。その心を支えるものが人権です。」というあいさつで閉会した。

誰にも言えない子どもの人権110番は

電話 0120-007-110へ

